

家族への 思いやりです がん検診

～自分自身や家族のためにがん検診を受けましょう～

山浦 俊一* 大森 要子 篠原 嘉 入江 ふじこ

1. 目的

茨城県地域がん登録の情報をもとに、がん検診の重要性について考察する。

2. 対象と方法

地域がん登録事業における平成 16 年罹患集計の対象となった届出罹患者 10,595 件(男性 6,247 件、女性 4,348 件)のうち、胃・大腸・肺・乳房・子宮の 5 部位のがんについて、進展度と 4 年生存率を検診受診者と有症状受診者で比較した。

平成 16 年罹患集計における DCO は 23.6%、IM 比は 1.4 であった。

また参考であるが、厚生労働省の地域保健・老人保健事業報告による茨城県の平成 16 年度のがん検診受診率及び 47 都道府県における順位については表 1 のとおりであった。

表 1. 部位別受診率

	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮がん
受診率(%)	12.9	15.7	34.8	7.6	10.6
順位(高い方から)	27	33	15	41	42

3. 結果

5 部位の総罹患数のうち、検診受診者は 713 件、有症状受診者は 2,324 件であった。

受診の動機をみると主要 5 部位の合計では、有症状受診の割合が 46.0%と最も高く、次いで他疾患治療中 14.9%、検診受診(集団検診及び個人健康診断の合計) 11.2%の順であった。また 5 部位別にみても有症状が約 38~62%と高い割合を占めていたのに対し、検診受診者では女性乳房 17.0%、大腸 15.5%、肺 15.1%、胃 13.4%、子宮 11.8%と低かった。

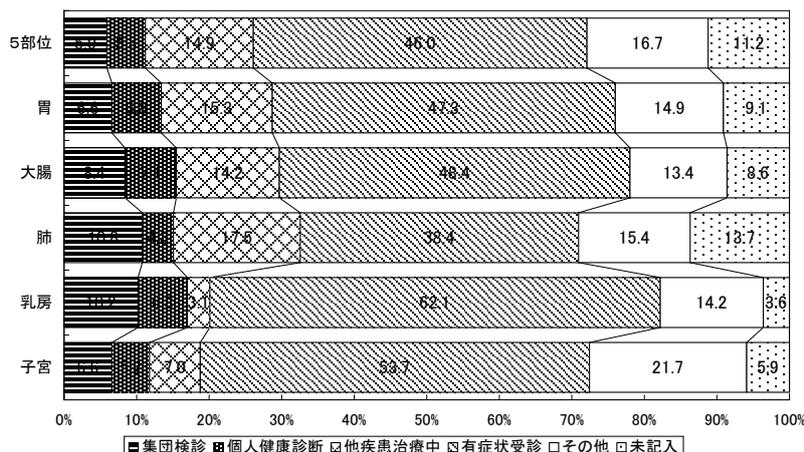


図 1. 主要部位別の受診の動機

*茨城県保健福祉部 保健予防課

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978-6

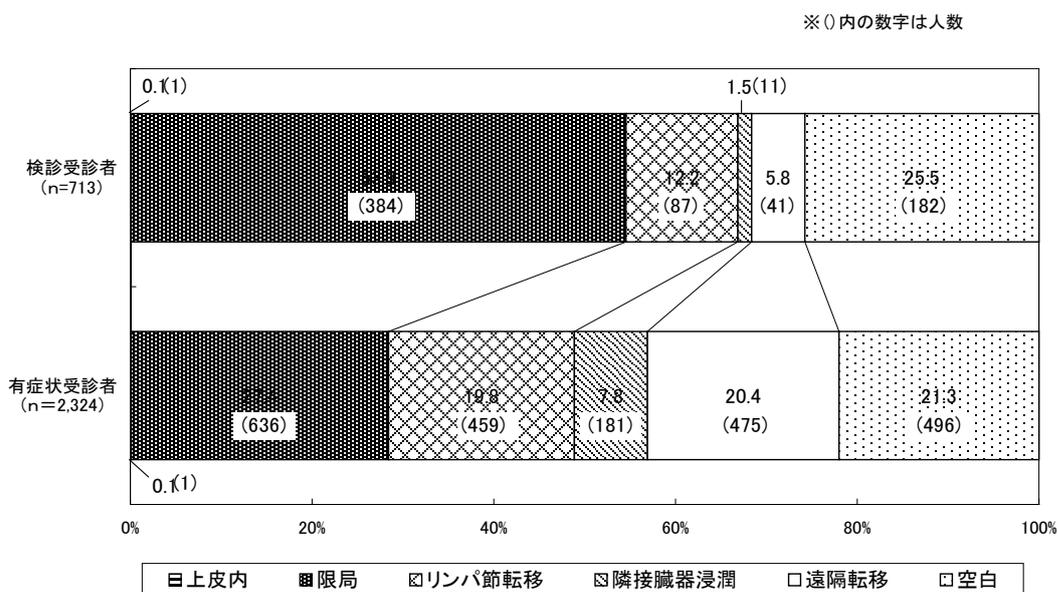


図 2. がん進展度

がんの進展度について、主要 5 部位の合計で見ると、限局がんの割合が、検診受診者で 53.9%であるのに対し、有症状受診者では 27.4%であった。また遠隔転移がんの割合は、検診受診者が 5.8%であるのに対し、有症状受診者では 20.4%であった。

生存率を見ると、全体として検診受診者の方が有症状受診者よりも高く、5 部位全体の 4 年生存率は、検診受診者 86.7%に対し有症状受診者 49.5%であった。特に肺がんについては、検診受診者 71.3%に対し有症状受診者 11.1%であり、有症状受診者の生存率が低かった。

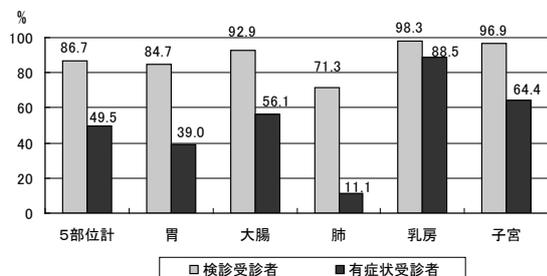


図 3. 4 年生存率

4. 考察

地域がん登録の精度がまだ低いことや、がん罹患における検診受診者の総数が少ないことなど、精度の面で課題は残るが、5 部位及び部位別でいずれも検診受診者に比べ有症状受診者で進行がんの割合が高い傾向が見られた。

また検診受診者の方が有症状受診者に比べて生存率が総じて高い傾向が見られ、特に肺がん、胃がんについてその傾向が顕著であった。

がん検診受診による早期発見・早期治療が予後の改善に大きく寄与していることが推察された。

上記のことから、がん検診の受診率向上は、がん死亡の減少に寄与するものと考えられるが、今後本県においても、がん検診受診率向上に向けた取り組みが必要と考えられる。